

事務事業評価シート（評価実施年度：平成27年度）

上位の施策名称 施策1-1-1 県内企業の経営・技術革新の支援

1. 事務事業の目的・概要

事務事業担当課長 土木総務課長 末満 章悟 電話番号 0852-22-5224

事務事業の名称	建設産業経営革新促進事業		
目的	(1) 対象	県民に	
	(2) 意図	適切な建設工事が行なえる。	
事業概要	公共事業の削減に伴う地域経済や地域雇用に対する影響を緩和するとともに、住民生活や経済活動の基盤となるインフラ整備の担い手である建設産業の健全な経営を維持するため、建設業等が行う新分野進出のための調査研究・販路開拓事業、設備投資に対する補助金の交付、経営課題解決のための外部専門家の派遣、専任のコーディネーターによる事業計画策定支援や新分野進出後のフォローアップを行う。		

2. 成果参考指標

(1) 成果参考指標	指標名	式・定義	年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度	単位
			目標値		10.00	10.00	10.00	10.00	10.00
式・定義	新分野進出促進補助金を活用した建設業者のうち、新分野進出をした業者数	実績値	6.00	10.00	12.00	9.00			
			達成率		100.00	120.00	90.00		%
式・定義	指標名	式・定義	年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度	単位
			目標値		0.00	0.00			
式・定義		実績値	0.00	0.00	0.00				
			達成率		0.00	0.00			%

3. 事業費

	26年度実績	27年度計画
事業費(b) (千円)	59,147	118,957
うち一般財源 (千円)	59,147	118,957

4. 改善策の実施状況

前年度の課題を踏まえた改善策の実施状況	②改善策を実施した（実施予定、一部実施含む）
---------------------	------------------------

5. 評価時点での現状（客観的事実・データなどに基づいた現状）

○公共事業受注額が底を打ち微増傾向にあるものの、大幅な伸びが期待できないことから、建設業の新分野進出の意欲は依然として強い。特に近年は、社会的な要請が強い再生エネルギー分野（太陽光発電、バイオマス発電）や介護・福祉分野に取り組む企業が増えている。
 ・直近3カ年（H24-H26）の進出分野別補助金交付件数 環境8、飲食・サービス7、介護・福祉6、農業4、製造3、小売3
 ○新分野進出事業の経営状況は、平成25年度から配置した新分野進出コーディネーター2名による事業計画策定支援や販路開拓支援等のフォローアップ効果が現れ始め、黒字化した企業が増えつつある。
 ・黒字企業の割合 38%（H25試算）→50%（H26試算）

6. 成果があったこと（改善されたこと）

・黒字企業の割合が増加した。

7. まだ残っている課題（現状の何をどのように変更する必要があるのか）

- ①困っている「状況」
- ・安定的な売上と利益確保が難しく、新分野進出事業の半分以上が赤字の状態である。
 - ・特に農業分野は、安定的な生産と販路の確保が難しく、赤字企業の割合は62%と最も高い。
- ②困っている状況が発生している「原因」
- ・新分野進出するに当たって、必要なノウハウ、技術、人材等を必ずしも有していない。
 - ・特に販路の確保・開拓に苦慮している建設業者は多い。
- ③原因を解消するための「課題」
- ・建設業者自ら、新分野進出に必要なノウハウ、技術、人材等を獲得すること。
 - ・進出分野に精通した外部専門家の力を借りること。
 - ・同業種・異業種の他社や地域・団体と連携すること。

8. 今後の方向性（課題にどのような方向性で取り組むのかの考え方）

- ・新分野進出コーディネーターによる事業計画の策定支援や販路開拓等のフォローアップをきめ細かく実施する。
- ・課題解決のための専門家派遣「経営力強化アドバイザー派遣事業」の利用を促進する。
- ・「分野別交流プラザ事業」を通して、同業種、異業種や地域・団体との連携構築の場づくりを推進する。
- ・農林水産部と連携して、農業分野への進出を促進し、安定生産と品質向上を支援する。
- ・他部署や国が実施する販路拡大や教育訓練等の支援メニューの周知、利用を促進する。

○課（室）内で事務事業評価の議論を行うにあたっては、本評価シートのほか、必要に応じて、「予算執行の実績並びに主要施策の成果」や既存の事業説明資料などを活用し、効率的・効果的に行ってください。

○上記「5. 評価時点での現状」、「6. 成果があったこと」、「7. まだ残っている課題」、及び「8. 今後の方向性」について、議論がしやすいように、「5. 評価時点での現状→6. 成果があったこと」、又は「5. 評価時点での現状→7. まだ残っている課題→8. 今後の方向性」が一連の流れとなるよう、わかりやすく、ストーリー性のあるシート作成に努めてください。

9. 追加評価（任意記載）